



# 型式：AHP-2500H エアーハイドロポンプII [ホース / ゲージ付] 取扱説明書

この度は弊社製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。  
ご使用前に内容品の確認と使用時における注意事項を熟読頂き、ご理解の上で使用くださいますようお願い致します。



## 仕 様

- 最高油圧力：70MPa (700kgf/cm<sup>2</sup>)
- 推奨エアー圧：0.7MPa (7kgf/cm<sup>2</sup> 以下)
- タンク有効油量：1.6ℓ (容量：1.7ℓ)
- 吐出ポート：3/8"NPTF
- 重量：7.3kg
- ホース全長：1.5 m
- 推奨作動油：一般作動油 (ISO VG32)

○この取扱説明書は、作業時すぐ確認できる場所に保管してください。紛失された時には、販売店または当社業務 G 宛てまでご請求ください。

## <<<使用前の準備>>>

※必ず行ってください。

準備を行わずご使用すると本機が破損する恐れがございます。

①



①写真の赤色樹脂キャップを取り外してください。

※ネジは正ネジです。

※取り外したキャップは大切に保管してください。  
運送時に必要です。

②



②付属の黒色樹脂キャップを締め付けてください。

黒色樹脂キャップは本機器の作動時に使用するキャップで  
圧力逃し穴が開いています。

③



③エアースホースに接続してレギュレーターのメーターエア圧が  
0.7MPa (7kgf/cm<sup>2</sup>) であることを確認してください。

※メーターの青色文字で確認してください。

※レギュレーターは絶対に外さないでください。  
エア圧 0.7MPa (7kgf/cm<sup>2</sup>) 以上で使用すると  
ポンプが破損します。  
クレーム対象外となりますのでご注意ください。

## <<<操作方法>>>



油圧ホースをラム等にセットしたのちエアースホースを接続し、  
①の操作ペダルを踏みます。(加圧されます。)

②の操作ペダルを矢印の方向に踏むと解除されます。

## <<<保守・点検方法>>>

- ・作業前に必ず始業点検を行ってください。
- ・異常と思われる箇所が発見された場合には、直ちにお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使用すると本機の破損および重大事故につながる危険性があります。

点検箇所	内 容	点検方法
ポンプ	各部のオイル漏れ確認	目 視
	タンク内のオイル量の確認	目 視
ホース	変形・キズ等の有無確認	目 視
カプラー	オイル漏れ確認	目 視
	異物の付着・汚れの有無確認	目 視

## <<<保証条件について（ご購入後 1 年間）>>>

- ・品質的または技術的な欠陥品は、欠陥品返品検証修理の手順に基づき修理又は新品交換いたします。
- ・欠陥品かどうかの判断は発売元が決定いたします。
- ・当保証は、事故・不正使用・交換・意図される目的以外での使用、または取扱説明書に従わなかった場合の損傷につきましてはいかなる保証もいたしません。
- ・当保証は明確に正式な販売店から購入された物に限定されます。
- ・当保証を譲渡や移転する事はできません。
- ・発送時に発生した損傷については送付側の責任となります。
- ・返却品、輸送方法は販売店の許可が必須条件となります。

## <<<返却時の注意事項>>>

- ・返却品、輸送方法は販売店の許可が必須条件で運送会社の指定等がありますので、必ずお問い合わせの上、お送りください。  
また、購入時に油圧タンクに付いていた、赤色の樹脂キャップを再度取り付けてから輸送時の損傷を防ぐために十分な梱包を行ってください。

※黒色の樹脂キャップには通気口の穴が開いていますので輸送時に作動油が漏れます。

- ・返却時に発生した破損につきましては当保証では対応できません。  
送付側の責任となりますのでご注意ください。

## <<<使用上の注意事項>>>

- ⚠ 本機を分解および改造してはいけません。
- ⚠ 本工具はエア圧：0.7MPa 以下（7kgf/cm<sup>2</sup> 以下）のエア圧でご使用ください。  
エア圧を高圧にするとエアポンプやホース・カプラーなどが破損します。  
付属レギュレーターで、必ずエア圧：0.7MPa 以下（7kgf/cm<sup>2</sup> 以下）になるように調整してください。
- ⚠ エアポンプ内部の潤滑が重要です、使用前後にエアカプラーからエアツールオイルを適量点滴し常に油膜を確保してください。長期間使用しないとポンプが固着して動かなくなり修理が必要となります。
- ⚠ エアポンプを分解および改造すると、油圧出力・制御などの設定がズレて安定しなくなります。
- ⚠ 作動油は一般作動油（ISO VG32）をご使用ください、規定量以上の作動油を入れしないでください。  
規定量以上の作動油を油タンクに戻すと内部圧力が上昇し、油タンクが破損し人身事故につながるおそれがあります。
- ⚠ ポンプを加圧した状態でのカプラーの脱着禁止、作動油が飛び出したり、カプラーが破損して大変危険です。
- ⚠ 加圧時には絶対に圧力ホースを手で握らないでください。手で握った状態で油圧ホースが破損すると高圧の作動油が瞬時に噴出し、手に穴があくほどの怪我をするおそれがあります。
- ⚠ ホースはねじれたまま使用せず、真っ直ぐ伸ばしてからご使用ください。またホースへの落下物などによる衝撃やホースを持ってポンプの持ち運びは厳禁です。ホース破裂の原因になり重大事故を招きます。
- ⚠ ホース先端の油圧カプラー〔オス型〕の先端は丁寧に扱ってください。ぶついたりして先端が壊れるとオイル漏れを起こしますし、他の油圧機器に接続できなくなります。また異物の付着・汚れの無いように清潔にしてください、異物が混入すると、オイル漏れや故障の原因になります。
- ⚠ 油圧ホースのカプラーや接続部を何かしらの理由で増し締めをする場合は適合径の工具で締めてください。工具をパイプなどで延長して無理に締めこむと破損します。
- ⚠ 火気への接近および 60℃以上の高温環境での使用禁止、故障の原因になるとともに、引火する危険性があります。
- ⚠ 油圧機器の危険な環境での使用禁止、油圧機器を操作するときには保護具を着用のうえ、可動物体・鋭利な物・薬品・腐食物体等の危険物を遠ざけてください。油圧機器の故障時および誤差操作時に重大事故を招きます。
- ⚠ 油圧機器は雨または塩気がかかる場所での使用はしないでください。錆の発生より、オイル漏れやその他の故障の原因になります。
- ⚠ 異常と思われる箇所が発見された場合には、異常箇所の修復を完全に行うまで本機の使用を禁止して、直ちにお買い上げの販売店に連絡してください、そのままお使いになると本機の破損および重大事故につながる危険性があります。
- ⚠ 本機を末永く安全にご使用していただくために、12ヶ月毎にオイル交換を含めた点検一式のオーバーホールを推奨いたします、お買い上げの販売店に連絡してください。
- ⚠ 本機に作動油を給油する時は、必ず油圧シリンダが縮んだ状態で行ってください。  
伸びた状態で給油しますと、油圧シリンダを戻した時に本機に許容量以上のオイルが戻り、タンクが破損する恐れが有り危険です。
- ⚠ 作動油が目や傷口に入った場合、清潔な水で十分洗い流し直ちに病院で手当を受けてください。
- ⚠ 作動油は劣化します、交換時は必ず全量を交換してください。